



患者の負担軽減へ

## 消化管の内視鏡下手術

内視鏡下手術という手術を知っていますか。内視鏡(胸腔鏡や腹腔鏡)をお腹の中に入れて、3〜10mmの小さい創きずから細い道具を使って手術を行う方法です。創の痛みが少なく回復が早いなどの利点があり、消化管については平成2年ごろから試みられています。

食道は、首と胃をつなぐ管で大部分が胸の中にあります。このため、食道の切除には開胸の必要があり、体に与える影響が大きい手術です。内視鏡を用いることで、呼吸機能の低下を防ぎ、肺炎などの合併症を減らすことが可能になりました。

胃の内視鏡下手術は世界に先駆けて日本で発展しました。悪性腫瘍の手術にはリンパ節郭清かくせい(リンパ節の掃除)を一緒に行わずにはなりません。当初は胃の一部を切り取る内視鏡下手術のみが行われていましたが、最近では郭清を伴う胃の全摘出も可能にな

り、従来の開腹手術と比べて遜色のない結果が報告されています。

大腸の内視鏡下手術は欧米を中心として発展してきました。現在は日本でも約4割の大腸がんが腹腔鏡下に行われており、この比率は将来さらに高まるといわれています。また、開腹手術と比較しても治療成績が良好であることが報告されています。

このように利点の多い内視鏡下手術ですが、独特な技術が必要なため、日本内視鏡外科学会では技術認定医制度を定め、技術の普及に努めています。技術認定医の情報は内視鏡外科学会のホームページなどで確認できますので必要な人は利用してください。

吹田市医師会 福永 浩紀